

親こそ最良の医師

公文数学研究会の機関誌“やまびこ”に掲載されたものを、引用させて頂きました。公文会長に感謝申し上げます。

東京の工藤先生の文を読んで思いますことは、「一人の障害児が漢字を読んだということを耳にした親が、次々と三人も続いて申し込んで来た」ということです。親たちの求める気持のいかに強いかがうかがわれ、ドーマン博士の“親こそ最良の医師”という意味が、よくわかる気がいたします。

大阪の田中先生の文では、『覚えられる漢字をなぜ今まで覚えさせなかったのか、本当に腹が立ちます』『世間一般でも“どうせできないだろう”という先入観が、かなり根強いようです』という御意見、実践者だけが感ずるものであって、これが大きく広がった時、初めて教育が大きく変わるのだと思います。